

『民具』

「くらしと共に歩んだ道具たち」

民具とは、私たちが日常、生活の必要から製作あるいは使用している器具・道具の総称で、人の生活の成り立ちや移り変わり、日本の日常の伝承文化の形や特質を知る上で欠くことのできない民俗資料のひとつです。

第二次世界大戦後、昭和30年代の技術革新は目覚ましく、耕運機の発達の結果、田畑から牛馬耕が姿を消し、2000年の伝統を持つ



▲民具の体験実習（千歯扱ぎ）

それぞれの民具には地域によって、構造や呼称の違いがあり、文化の伝わり方や地域的特性を物語っています。このことから、収集に当たっては収集する地域のありのままの姿に目を向けることが必要となります。

民具は決して華やかなものではなく、使い勝手を追求し、時代の流れ、営みの中で工夫・改良が見られ、手直しや修理を繰り返し大切に使われたモノもあります。私たちの祖先が、生活の必要上から創意工夫をこらしてきた生活体験の結晶で、血と汗の染みこんだ生活の歴史を代弁してくれるものです。

高島の民具

高島市も、数多くの民具を収集し、保管、展示しています。その一部の民具が各資料館に展示されています。

○ 朽木資料館

朽木に残る文化財を中心に山仕事の道具や生活用品を展示し、杣人の歴史と文化を伝えていきます。特筆すべきは、県指定有形民俗文化財に指定されている「朽木の木地屋用具と製品」（江戸く明治）で、「手挽きロクロ」ほか、朽木盆（菊盆）をはじめ椀、片口が展示されています。

☎(38) 23339

○ マキノ資料館

農林水産業で暮らしを営んできた先人の知恵と苦労を知り、次代に引き継ぐと「稲作の昔と今」、「山の仕事」、「村の行事」、「くらしとの道具」に関連する民具やエントランスには、在原地区の民家の囲炉裏端がジオラマ展示されています。

☎(27) 1484

○ 高島歴史民俗資料館

「昔のくらし」コーナーが設置され、ちゃぶ台、テレビ、ラジオなど多くの生活用品を並べ、昭和30年代頃の居間を再現しています。

昨今、民具等を使った回想法は、高齢者の保健・医療・福祉の分野で介護予防や地域における生きがい活動、世代間交流等に利用されています。なお、資料館では、これらの民具資料を、学校、福祉協議会、JA、各種団体等に貸出しを行い、利用していただいています。

☎(36) 15533

(文化財課)

編集者のつぶやき

▼明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。
▼表紙は、高島保育園のもちつき大会の一コマ。おめでたい時はやはりお餅ですね。私も餅つきをさせていただいたところ、日ごろの運動不足がたたり筋肉痛に…。情けない限り。近頃、例に漏れずお腹がでてきたことあるので、今回の特集記事に習って、今年こそは適度な運動を習慣づけたいと思います。まずは近所のウォーキングからはじめてみます。(広報担当S)